

『終末期医療を考えるために 検証 オランダの安楽死から』
お詫びと訂正

本書の表記に誤りがございました。
謹んでお詫び申し上げますとともに、以下のとおり訂正いたします。

訂正箇所

- p. i 3行目 (誤) 2015年に2021件あった。
(正) 2015年に2022件あった。
- p. ii 14行目 (誤) 一端
(正) 一旦
- p.5 4行目 (誤) 希望にに
(正) 希望に
- p.25 3行目 (誤) 安楽死しし
(正) 安楽死し
- p.45 10行目 (誤) ありません。
(正) あります。
- p.53 写真 (誤) 家庭医のブルーム医師
(正) 家庭医のプローム医師
- p.63 12行目 (誤) 四分の一
(正) 四分の三
- p.106 8行目 (誤) 華ちゃんが死を望んだということは紛れもないのである。
(正) 華ちゃんが延命を拒否したということは紛れもないのである。
- p.117 10行目 (誤) process)」にすぎず
(正) process)」(ヨナス)にすぎず
- p.120 4行目 (誤) 国会に提出した。
(正) 国会に提出した(二〇一六年一〇月一三日付「ポートフォリオ・バザール」)。
- p.123 7行目 (誤) 自死の営利目的での介助自殺は禁止するが、
(正) 営利目的での自殺幫助は禁止するが、

追記

- p.118 注(1) この個所で筆者が試みたのは、NHKで放映された内容をテキスト
トとした、生命倫理学の方法(原則主義とケアリング)の批判であり、
事実の解釈ではない。